



#和紙キャンドルガーデン #東北

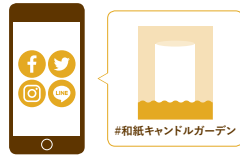
あなたも「伝えつなぐ」ことができます。

和紙キャンドルの写真を撮って、ハッシュタグ「#和紙キャンドルガーデン」「#東北」を付けてSNSに投稿してください。
あなたもキャンドルに込めた東北の方々のメッセージを世界中に伝えることができます。

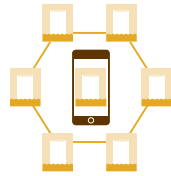
1 心に残った和紙キャンドルを撮影



2 ハッシュタグをつけてSNSに投稿



3 あなたの投稿写真で伝えつなぐ



物販コーナーで、SNSに投稿した画面を見せてください。先着100名の方に東北の学生がデザインしたトートバッグをプレゼントします。

主催 Sponsorship
東京ミッドタウン TOKYO MIDTOWN
企画・運営 Projected and Management
多摩大学 村山貞幸ゼミ「日本大好きプロジェクト」
TAMA UNIVERSITY Sadayuki Murayama Seminar Group* NIPPON DAISUKI PROJECT*

協力 Cooperation
カメヤマキャンドルハウス kameyama candle house
多摩大学 目黒中学校・高等学校 高大接続プログラム
TAMA UNIVERSITY MEGURO JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
High school/University connection Program

東北と東京の
大学・高校・学生団体に
ご協力いただきました。

- 東北の大学 岩手大学 / 東北生活文化大学 / 尚絅学院大学 / 東北福祉大学 / 福島大学 他
- 東北の高校 岩手県立釜石高等学校 / 岩手県立久慈高等学校 / 岩手県立久慈工業高等学校 / 岩手県立高田高等学校 / 宮城県立本吉響高等学校 / 宮城県立利府高等学校 / 福島県立小野高等学校 / 福島県立原町高等学校
- 東北の団体 かきかっこ「J」PROJECT
- 東京の大学 東洋大学 ボランティアサークル Bbooth
- 東京の高校 多摩大学 目黒中学・高等学校 高大接続プログラム



多摩大学 村山貞幸ゼミ「日本大好きプロジェクト」では、平成20年10月より日本の伝統文化を伝承していく活動を始めました。日本の伝統文化に数多く触れることで、多くの方に日本を深く理解し、心から「大好き」になっていただくことを目指します。



インフォメーション Information

ショップ・レストランの営業時間 Opening hours of shops and restaurants

ショップ Shops 11:00-21:00 レストラン Restaurants 11:00-24:00

※一部店舗により異なります。詳しくはフロアガイドをご確認ください。
*Some shops keep different hours. Please check the floor guide for full details.

アクセス Access

- 都営大江戸線「六本木駅」8番出口より直結
- 東京メトロ日比谷線「六本木駅」より地下通路にて直結
途中、段差があるため車椅子・ベビーカーをご利用のお客さまは日比谷線「六本木駅」で地上部に出てお越しください。
- 東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩約3分

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-1

東京ミッドタウン・コールセンター
03-3475-3100

[受付時間 10:00-21:00]

東京ミッドタウン / TOKYO MIDTOWN
<http://www.tokyo-midtown.com/>



イベントガイド
EVENT GUIDE

和紙 キャンドルガーデン -TOHOKU 2018-

2018.3.10 SAT-3.12 MON

🕒 17:00-21:00 📍 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン、芝生広場



和紙キャンドルガーデン -TOHOKU 2018-

2018.3.10 SAT-3.12 MON

🕒 17:00-21:00 ※雨天・荒天中止 *Cancelled in the event of rain or bad weather

📍 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン、芝生広場
TOKYO MIDTOWN Midtown Garden, Grass Square

東日本大震災の被災地を巡り、東北の方々のメッセージを届けるプロジェクト「和紙キャンドルガーデン」。
多摩大学 日本大好きプロジェクトの学生が心を込めた手漉きの和紙を和紙キャンドルに仕立てました。
今年は「伝えつなぐ」をテーマに東北3県125市町村へと足を運び、現地の方々の想いをお届けします。

“Washi” candle garden” is the project to hand in the messages from Tohoku region who were suffered from the Great East Japan Earthquake.
“NIPPON DAISUKI PROJECT” from Tama University students made washi candles by handmade washi.
“Inherit” is the theme of this year.
We visited 3 prefectures including 125 cities/towns and brought back their messages.
*Washi: Japanese traditional paper

- [料金] 無料
- [主催] 東京ミッドタウン
- [企画・運営] 多摩大学 村山貞幸ゼミ「日本大好きプロジェクト」
- [協力] カメヤマキャンドルハウス
多摩大学 目黒中学校・高等学校 高大接続プログラム
- [Charge] Free
- [Sponsorship] TOKYO MIDTOWN
- [Projected and Management] TAMA UNIVERSITY Sadayuki Murayama Seminar Group "NIPPON DAISUKI PROJECT"
- [Cooperation] kameyama candle house
TAMA UNIVERSITY MEGURO JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL High school/University connection Program



多摩大学村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクトでは、日本の伝統文化を伝承する活動を行っております。その一環として「和紙キャンドルガーデン-TOHOKU2018-」を企画・運営しています。本イベントでは私たちが1枚1枚心を込めて漉いた和紙に、東北の方々の想いをかいていただき、キャンドルに仕立てました。

私たちは3.11の東日本大震災が起きてから被災地を何度も訪問し、東北の方々と交流を重ねてまいりました。2016年度までは、沿岸部を中心に40市町村を訪問してまいりましたが、2017年は東北3県(岩手、宮城、福島)125市町村を訪問いたしました。東北の方々からいただいた、約2,500枚の和紙メッセージをご覧ください。

日本大好きプロジェクトメンバー一同

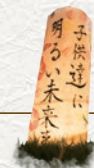


無地和紙ロード



ミッドタウン・ガーデンには、無地の和紙キャンドルを配置し、シンプルな空間を演出することにより、風の音や季節の空気感と共に和紙の美しさを感じていただき、芝生広場へとご案内いたします。

芝生広場



芝生広場全体のデザインコンセプトは「東北の方々の声があつた木」。東北生活文化大学の版画ゼミの学生と考えたデザインです。東北3県(岩手、宮城、福島)の125市町村で和紙にかいていただいた、約2,500のメッセージを和紙キャンドルとして灯します。



心に残った和紙キャンドル

心に残った和紙キャンドルの写真を撮って、ハッシュタグ「#和紙キャンドルガーデン」「#東北」を付けてSNSに投稿してませんか? 先着100名の方に、東北の学生がデザインしたトートバッグをプレゼントします。



物販コーナー



東北の大学である東北生活文化大学の版画ゼミの学生がデザイン・製作したトートバッグを販売します。

東北へのメッセージコーナー

東北へ送るメッセージを募集しております。皆さまからいただいたメッセージは、岩手、宮城、福島の復興まちづくり情報交流センターなどにお送りいたします。



このイベントを通してさまざまな方と交流することで、東北で起こった震災をたくさんの方に忘れずに伝えたいことを目的として、このイベントに参加しています。
東北のことをより知ってもらうためにもぜひ、私たちが行う物販コーナーへ足を運んでいただけると嬉しいです!
東北生活文化大学 版画ゼミ一同



「伝えつなぐ」

「和紙キャンドルガーデン-TOHOKU2018-」では、震災の記憶が風化しないよう、テーマを「伝えつなぐ」としました。伝えつなぐために、まず、私たち日本大好きプロジェクトメンバーがより東北のことを知る必要があると考え、今回も多くの時間を東北で過ごしました。東北の学生との関わりも増やし、これまでは足を運ぶことができていなかった内陸にも足を運びました。そして、東北の現状を伝えることで、東北の方々の声が届くことを願います。



1



2



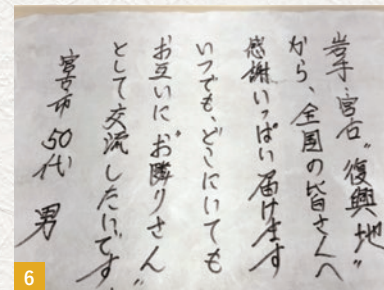
3



4



5



6

1 心を込めて、1枚1枚和紙を漉いています。 2 まだまだ復興は続いています。 3 東北の大学との打ち合わせ風景。 4 東北でたくさんの方に会いました。 5 6 東北で約2,500人の方にメッセージをいただきました。

大熊町に住んでいた方々の想い

震災から約7年が経過した今も、福島県の大熊町と双葉町では、未だに立ち入りが制限されています。今回、私たちはいわき市にある仮設住宅に足を運び、そこに住む6名の大熊町の方々と交流しました。震災当時のお話を伺い、「震災を経験する前は、テレビで他の震災を見ても他人事だったけれど、自分が震災を経験して、もっと支援してあげればよかったと思った。たくさんの人に助けられたよ。」と、涙を浮かべて話していただきました。そして、「震災は忘れてしまう人が多いけれど、他人事に思わず備えておいてほしい。帰れないかもしれないからね。」と伝えていただきました。



過去6年間の芝生広場デザイン

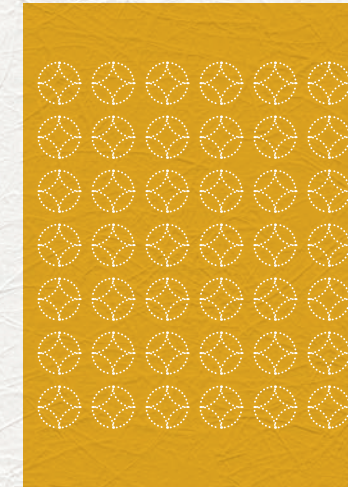
芝生広場一面に広がる和紙キャンドルのデザインには、日本伝統文様の「七宝文様^{*}」を使用。輪がつながって無数に広がることから、東北の方々との「つながり」を表現してきました。

※七宝文様：伝統文様の一つで、輪がつながるように広がっていく様子から、平和やご縁を願うという想いが込められています。



2011年
「力」

被災地、全都道府県、世界67か国からの力強いメッセージを、大きな七宝つなぎで表現しました。



2012年
「絆」

被災地37市町村を巡る中で、皆さまが強い絆で結ばれていることを印象づけられ、「つながり」を連想させる七宝文様で表現しました。



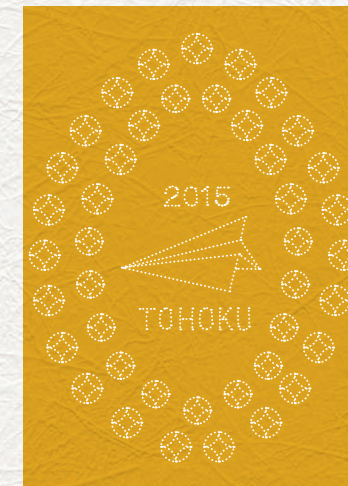
2013年
「繋がる」

被災地の方々とのつながりをきっかけに、東北の学生と共にイベントを創り上げました。被災地37市町村の方々との交流。



2014年
「伝える」

東日本大震災から3年半が経過した東北42市町村の方々の想いを伝書鳩のせて東京から全国の方々に伝えました。



2015年
「伝え続ける」

被災地38市町村に足を運びました。東北の方々の声がたくさんの方に届いてほしいという想いを紙飛行機で表現しました。



2016年
「伝え続け、アクションにつなげる」

「扉を開き、一步踏み出す」を表現。避難指示解除になった川内村、葛尾村を加え、40市町村の方々からメッセージをいただきました。

今年も東北生活文化大学の学生と共に考案したデザインをお楽しみください。

私が初めて東北を訪れた日の
当たり所したのは報道されない
事実でした。イベント以外にも
多くの人達に内陸部にも
震災被害にあたることを伝えて
いきたいです。
2年 上野 秀



「震災が運命と感じた」と言わず
女子高校生に出会いました。
震災前は暗い性格でしたが、
強く生きる為により明るく変わった
という言葉でした。2年 臼井 翔羽



東北訪問で強く感じたのは、
東北を訪れて欲しいという
東北の方々の思いでした。
東北は本当にあつたか、場所です。
私はその思いを伝えたいです。
4年 石橋 拓也



「感謝」ばかりで描けば
いいんでしょう？」
実際に震災を経験した方々とし
私たちの思いのすれ違いを
痛感しました。4年 藤根 志織



「福島出身と言えない」と言葉が
未だに忘れられません。
東北の方々の思いを月日に
和紙やポストカードに込めて
2年 佐藤 将太郎



東北の方々に「素晴らしい活動
していますね」と仰っていた
ことが多くありました。
少しでも役に立っているの
が、私は嬉しいです。
2年 藏田 智大



「おれは達の活動は、とても
素晴らしいけど思いつく
と下を向き、黙ってしまつた方。
沈黙」から、様々な気持ちを
知りまじい。4年 黒川 歩花



風化させない為の我々の活動。
その一方で「忘れたら」の一言
「東日本大震災」のフレーズを使った
後のあの表情は今でも忘れ
4年 竹内 正太



目をうるませて話を下さった
「忘れてほしい」の言葉。
そういう方々の思いを伝えて
改めて思いました。
2年 内田 悠太



東日本大震災を「忘れてほ
い」という声がある限り、
東北の方々の声も、伝え続けます。
2年 篠原 真真



メッセージも頂く際に「二度とあのような
震災が起きないことをただただ神様
に祈るしか出来ない」と目に涙も浮
かば母が5年前のお話をしていた
ことが深く印象に残っています。
4年 後藤 優香



4年間東北へ赴いておりましたが、
その時々感じるものが多かったです。
是非「今日」と言う日を機に7年前と
今の違いを肌で感じて頂けたら
4年 内嶋 太一



「何も語れない。被害に遭われた
人に申し訳ないから」と
内陸の方に言われた時に私達の
活動は正しいのか、自分に何度も
問いたました。
2年 藤生 龍之介



いわき市の仮設住宅に足を
運びました。
3.11の教訓を忘れぬよう伝えて
ほしいと託されました。
3年 竹野 りか子



「まだまだ、物の復興が進んで
いない」と言っていた方が
いました。
東北の現状を知り、ほしいと
思っています。
4年 矢野 真大



震災から7年目の東北へ行って感じた
ものは、沿岸と内陸での見えない
「壁」でした。そういったことも
和紙やポストカードで伝えてい
たいと思います。
4年 滝 直樹



年々報道が減っている中
現在でもボランティア活動
を続けている人達がいる。
そういった人達の姿を忘れない
ほしい。
3年 小島 真輝



「東北に遊びに来てほしい！」
東北の方々が望んでいるのは、
震災を忘れない事だけ
ありません。3年 加藤 大基



日本大好きプロジェクトの
メンバーが綴る

東北への 想い

伊達市のおじさんは、3.11のことは
気持ちの整理もまだ出来て
いないと仰っていました。
東北の現状をたくさんの方々に
知ってもらいたいです。3年 上地 慧



メッセージのお願いをして丁寧に
言葉を答えて、首を横に振って
方がいろいろと教えて
言葉に出せないことが「答えだ」と
知りまじい。3年 西iri 今日子



「震災から。もう前のことではねー
あの時は大変だったけど、
色々な人に支えられたよ」と
笑顔で話してくださり
私は逆に元気をもらいました。
4年 藤倉 万里菜



「震災に運命を感じた。」
震災を通じて自分が変わることができた、
と明るく前向きなお話をしてくれた
高校生と出逢ったことが印象に残
っています。3年 酒井 彩加



私は東北を巡り、元気を感
じた。大変な経験を乗り越え、笑顔で
私たちに接していただいたことが
とても印象的でした。
和紙メッセージを通して東北の
ペーを伝えることを願
います。3年 樋熊 丈也



「震災当時のことは思い出したくない」
という言葉も聞き、往年並みの復興は
進んでいないが、気持ちの復興は、
当時から進んでいないと感じた。
4年 所谷 祐嗣

